

INTESTINE

第25巻●総目次

Vol.25／No. 1～No. 4

(2021年5月刊行号～12月刊行号)

||||| 特 集 |||||

- No. 1 大腸癌のスクリーニングとサーベイランスの標準化に向けて—新しい知見から
No. 2 大腸Ⅱc—症例アトラス
No. 3 炎症性腸疾患の分子標的治療を総括する
No. 4 大腸Ⅱc—革命のその後

● Vol.25 No.1 大腸癌のスクリーニングとサーベイランスの標準化に向けて—新しい知見から

序 説「大腸内視鏡スクリーニングとサーベイランスガイドライン」の紹介

斎藤 豊・関口 正宇・松田 尚久 5-8

I. スクリーニング

(1)日本における大腸癌スクリーニングの現状と課題

松田 一夫 9-13

(2)便潜血検査による大腸癌スクリーニングの有効性のエビデンス

斎藤 博 14-20

(3)内視鏡スクリーニングによる大腸癌死亡リスク減少への期待

野崎 良一・山田 一隆 21-27

(4)大腸内視鏡を用いた大腸癌スクリーニングの研究

a. Akita pop-colon trial

児玉 健太・工藤 進英・松田 尚久

石田 文生・高橋 則見・永田 浩一

山野 泰穂・斎藤 博 28-32

b. 新島/大島スタディ

松田 尚久・角川 康夫・堀田 欣一

池松 弘朗・関口 正宇・坂本 琢

今井健一郎・古賀 宣勝・斎藤 豊

新島/大島 Study Workgroup 33-41

(5)大腸内視鏡を用いた大腸癌スクリーニングの試み

a. 青森プロジェクト(Project A)：立ち上げの経緯とその論点

吉田 茂昭・松坂 方士 43-46

b. 青森プロジェクト(Project A)：進捗と将来展望

花畑 憲洋・松田 尚久・斎藤 博

澤谷 学・三上 達也・斎藤 豊

関口 正宇・松坂 方士・吉田 茂昭

福田 眞作 47-51

(6)受診者リスク層別を考慮した大腸がん検診の可能性

関口 正宇・松田 尚久 52-57

(7)米国における大腸癌スクリーニングの現状

富澤 裕 58-63

(8)大腸癌スクリーニングにおける大腸CT検査の役割

永田 浩一・松岡 正樹・遠藤 俊吾

大平 弘正 64-69

(9)新規バイオマーカーを用いた大腸癌スクリーニングへの期待とエビデンス

高丸 博之・角川 康夫・関口 正宇

山田 真善・坂本 琢・斎藤 豊

松田 尚久 70-78

II. サーベイランス

(1)内視鏡的ポリープ切除後サーベイランス—日本と欧米のガイドラインの視点から

堀田 欣一・松田 尚久・関口 正宇

斎藤 豊・佐野 寧・藤井 隆広 79-84

[コラム] 大腸微小ポリープの取り扱い

堀田 欣一 85

(2)大腸T1(SM)癌に対する内視鏡切除後サーベイランス—ハイリスク群の抽出は

可能か？		中野 尚子・大森 崇史・渡邊 真	178-181
一政 克朗・工藤 進英・森 悠一		(11) 発見し難かった大腸Ⅱc病変の2例	
三澤 将史・宮地 英行		寺井 毅・村上 敬	182-185
AMED T1 Study Group	86-92	(12) 反転観察で発見された径9mm、大腸0-Ⅱc型T1b癌の1例	
(3) 大腸癌手術後サーベイランス—日本と欧米のガイドラインの視点から		鶴田 修・河野 弘志・渡邊 優征	
阿彦 友佳・愛甲 丞・志田 大	93-97	渡辺 大将・菅原 脩平・深水 航	
(4) 家族性大腸腺腫症とリンチ症候群の診療—「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」2020年版の紹介と活用のポイント		柴田 翔・上野恵里奈・鳥村 拓司	186-188
中島 健	98-107	(13) ひだのひきつれがきっかけで発見された微小Ⅱc病変／同一患者に二つのⅡc病変を認めた1例	
(5) 潰瘍性大腸炎関連腫瘍のサーベイランス—診療のポイントと最近のトピックス		猪又 寛子・玉井 尚人・堀内 英華	
牟田口 真・岩男 泰・下田 将之		樺 俊介・加藤 正之・炭山 和毅	190-194
南木 康作・三上 洋平・筋野 智久		(14) 拡大/超拡大観察を行ったPureⅡc症例	
高林 馨・緒方 晴彦・金井 隆典	108-114	高田 和典・堀田 欣一・今井健一郎	
● Vol.25 No.2 大腸Ⅱc—症例アトラス		伊藤 紗代・岸田 圭弘・小野 裕之	196-199
序 説 工藤 進英	129-130	(15) ひだの形状変化で発見した症例	
I. 大腸Ⅱcへの思い—現在・過去・未来		萬 春花・松下 弘雄・吉川健二郎	
藤井 隆広	131-140	田中 義人・加藤文一郎・田口 愛弓	
II. 症例アトラス		東海林琢男・榎本 克彦・原田 英嗣	200-203
(1) Lynch症候群に認めたⅡc症例／多発大腸腺腫の治療経過中に発見したⅡc症例		山野 泰穂	
山野 泰穂・大和田紗恵・吉井 新二		(16) 詳細な拡大観察を行った5mm大のⅡc病変の1例／拡大観察が有用であった10mm大のⅠs+Ⅱc型早期大腸癌の1例	
仲瀬 裕志	142-145	寺門 洋平・今村 哲理・前田 聡	
(2) わずかな色調と粘膜性状の違いで発見されたⅡc		鈴木 肇・乙黒 雄平・道上 篤	
田中 秀典・岡 志郎・田中 信治	146-149	賀集 剛賢・市原 真	204-207
(3) 絶対陥凹を有した大腸腫瘍に対してESDを施行したⅡc症例		(17) 発赤陥凹として発見された症例／潰瘍性大腸炎関連腫瘍であった陥凹型の症例	
春日 健吾・関根 茂樹・斎藤 豊	150-153	永田 信二・嶋田賢次郎	208-211
(4) T1癌であった陥凹型病変の2例		(18) 陥凹型(Ⅱc)由来と考えられたSM癌の2症例	
池松 弘朗・新村 健介・村野 竜朗	154-157	泉本 裕文・斎藤 彰一・榎本 有里	
(5) 腫瘍径4mm大の0-Ⅱc型大腸T1a癌／0-Ⅱc型の直腸S状部T1b癌		十倉 淳紀・石岡 充彬・安江 千尋	
一政 克朗・工藤 進英・宮地 英行		井出 大資・千野 晶子・河内 洋	212-215
森 悠一・三澤 将史・工藤 豊樹		(19) 小さな粘膜下腫瘍様隆起にて発見した0-Ⅱc+Ⅱa型進行癌／淡い発赤と血管透見像消失にて発見した0-Ⅱa+dep型腺腫	
林 武雅・若村 邦彦・池原 伸直	158-161	木庭 郁朗・萱嶋 善行・二村 聡	216-219
(6) わずかな色調変化とひだの変形で発見されたⅡc症例		III. Ⅱcについての最新の話題	
今野 真己・小林 望・小西 潤	162-165	(1) AIによるⅡc発見	
(7) 便潜血陽性で発見され内視鏡治療を行った0-Ⅱc症例		高階 祐輝・工藤 進英・三澤 将史	
田中 寛人・栗林 志行・浦岡 俊夫	166-169	工藤 豊樹・若村 邦彦・林 武雅	
(8) 10mm未満の陥凹型大腸腫瘍の2症例		宮地 英行・根本 哲生・石田 文生	221-225
佐野 寧・井上 史洋・佐野 互		(2) Ⅱcの遺伝子学的特徴	
岩館 峰雄・平田 大善	170-173	神山 勇太・工藤 進英・小川 悠史	
(9) 陥凹型早期直腸癌の2症例		望月 健一・加藤 一樹・工藤 孝毅	
福澤 誠克	174-177	一政 克朗・宮地 英行・三森 功士	226-229
(10) 10mmでSM浸潤をきたした上行結腸Ⅱc症例／特異な形態を呈したⅡc症例			

● Vol.25 No.3 炎症性腸疾患の分子標的治療を
総括する

序 説

炎症性腸疾患に対する分子標的治療

長沼 誠 243-244

I. 炎症性腸疾患の内科治療指針を総括する

中村 志郎・宮崎 孝子・柿本 一城

平田 有基・碓山 直邦・小柴 良司

木下 直彦・川崎 裕香・沼 圭二郎 245-253

II. 生物学的製剤・低分子化合物の作用機序

小林 拓 255-258

III. 抗 TNF- α 抗体製剤

河本 亜美・藤井 俊光 259-266

IV. 接着分子阻害薬—ベドリズマブの特性

を生かした IBD 治療

櫻庭 裕丈・平賀 寛人・蓮井 桂介

菊池 英純・村井 康久・川口 章吾

樋口 直樹・明本 由衣・福田 眞作 267-274

V. 炎症性腸疾患におけるウスステキヌマブ治

療

松岡 克善 275-278

VI. JAK 阻害薬

櫻井 俊之・猿田 雅之 279-284

VII. 生物学的製剤と Treat to Target (T2T)

志賀 永嗣・阿部 出・下山 雄丞

諸井林太郎・黒羽 正剛・角田 洋一

正宗 淳 285-290

VIII. 外科手術患者に対する生物学的製剤の実

際

内野 基・池内 浩基 291-296

IX. 現在開発中の生物学的製剤・低分子化合

物

松浦 稔・久松 理一 297-303

X. 生物学的製剤・低分子化合物と悪性腫瘍

大森 鉄平・佐々木 優・高鹿 美姫

神林 玄隆・村杉 瞬・米澤麻利亜

徳重 克年 305-310

XI. 生物学的製剤・低分子化合物使用患者に

対するワクチン接種

遠藤 克哉・佐藤 倫紀・川上 瑠子

吉野 祐貴・佐々木義輝・片山 智文 311-316

XII. 生物学的製剤・低分子化合物使用患者と

妊娠・出産

渡辺知佳子 317-322

XIII. 特異的分子標的薬使用患者における

COVID-19 リスクについて

仲瀬 裕志 323-327

● Vol.25 No.4 大腸Ⅱc—革命のその後

序 説

工藤 進英 341-342

I. 大腸Ⅱc の臨床のあゆみと現状

工藤 進英・一政 克朗・望月 健一 343-352

II. 大腸Ⅱc の病理のあゆみと現状

河内 洋 353-359

III. 各分野における大腸Ⅱc の現状、存在意
義と課題

(1) 基幹病院の立場から

a. “De novo 癌” の病態解明に向けて

田中 秀典・上垣内由季・玉理 太覚

下原 康嗣・稲垣 克哲・岡本 由貴

山下 賢・岡 志郎・田中 信治 361-367

b. 残された、解決すべき課題

鶴田 修・河野 弘志・渡邊 優征

渡辺 大将・菅原 脩平・深水 航

柴田 翔・上野恵里奈・鳥村 拓司 368-372

(2) 開業医の立場から

a. Ⅱc に時代的変遷が起きているのか

田村 智・田村 恵理 373-379

b. クリニックの大腸腫瘍の解析からみた
大腸Ⅱc の存在意義

寺井 毅・村上 敬・渡辺 英伸 380-389

(3) 病理医の立場から

a. 発育・進展における pericryptal fibro-
blast と形質発現の意義

八尾 隆史 390-393

b. pT1 癌の由来粘膜内癌からみて

味岡 洋一 394-402

IV. 拡大内視鏡診断が大腸Ⅱc、陥凹型病変
にもたらしたもの

(1) Pit pattern の立場から

藤井 隆広 403-412

(2) NBI の立場から

佐野 互・市村 徹・平田 大善

岩館 峰雄・服部 三太・藤田 幹夫

佐野 寧 413-419

(3) AI、超拡大の立場から

三澤 将史・工藤 進英・森 悠一

中村 大樹・一政 克朗・若村 邦彦

宮地 英行・石田 文生 420-426

V. 大腸Ⅱc 由来の大腸癌の頻度と特徴—大
腸癌研究会アンケート調査の結果より

石田 文生・工藤 進英 427-430

VI. 大腸陥凹型病変に対する認識の世代間・
施行医間格差

山野 泰穂 431-439

TOPICS

Vol.25 No.1

潰瘍性大腸炎における 5-ASA 不耐は予後不良である	日比谷秀爾・藤井 俊光・岡本 隆一 渡辺 守	115-118
炎症性腸疾患における抗 TNF α 効果減弱克服の試み	横山 陽子・柏木 伸仁	119-122

Vol.25 No.2

クローン病小腸粘膜治癒に対する抗 TNF α 抗体製剤の効果	竹中 健人	230-232
経会陰腸管エコーは潰瘍性大腸炎における内視鏡的・組織学的粘膜治癒を予測する	佐上晋太郎	233-236

Vol.25 No.3

内視鏡的切除後大腸 T1 癌のリンパ節転移の有無を術前予測し、追加外科手術の必要性を判断する人工知能システムの開発	工藤 進英・一政 克朗・斎藤 彰一 堀田 欣一・斎藤 豊・松田 尚久 山田 一隆・三谷 年史・大塚 和朗 森 健策	328-330
---	--	---------

小腸カプセル内視鏡画像診断支援—深層学習システムと QuickView mode の比較

青木 智則・山田 篤生・加藤 勇介 齋藤 宏章・壺井 章克・中田 史子 新倉 量太・藤城 光弘・岡 志郎 石原聡一郎・松田 知己・中堀 昌人 田中 信治・小池 和彦・多田 智裕	331-334
--	---------

Vol.25 No.4

寛解期潰瘍性大腸炎患者におけるインフリキシマブの休薬についての多施設共同非盲検ランダム化比較試験(HAYABUSA)	小林 拓・本谷 聡・中村 志郎 山本 隆行・長堀 正和・田中 信治 久松 理一・平井 郁仁・仲瀬 裕志 渡辺 憲治・松本 主之・田中 正則 阿部 貴行・鈴木 康夫・渡辺 守 日比 紀文 HAYABUSA Study Group	441-444
臨床的寛解期潰瘍性大腸炎における全大腸の内視鏡的・組織学的評価	金城 美幸・竹中 健人	445-447

大腸Ⅱc 研究会優秀演題

Vol.25 No.4

[第 28 回優秀演題]

開大の目立たないⅡ型様 pit pattern を基盤とする鋸歯状病変癌化の 1 症例	原田 英嗣・田中 義人・松下 弘雄 吉川健二郎・高木 亮・加藤文一朗 佐々木 真・橋本 大志・菅井 有 上杉 憲幸・永塚 真・山野 泰穂	448-454
---	---	---------

『INTESTINE』編集委員会(2021 年 11 月現在, 五十音順)

編集主幹

工藤 進英／日比 紀文

編集委員

岩下 明德／緒方 晴彦／鈴木 康夫／田中 信治／鶴田 修／久松 理一／藤井 隆広／
松本 主之／山野 泰穂／山本 博徳／渡辺 守